

# 令和 8 年 第 3 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 8 年 3 月 24 日（月） 午後 2 時 00 分
- 2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室
- 3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者  
櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 傍聴人 1 名
- 6 開 会 午後 2 時 00 分
- 7 令和 8 年第 2 回教育委員会定例会会議録の承認について  
鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 承認する。  
一盃森委員、丹羽委員 署名。

## 8 教育長報告

### (1) 一般事務報告

報告第 1 号 令和 8 年第 1 回大河原町議会定例会（3 月会議）の結果について  
教育総務課長、生涯学習課長より説明。

### (2) 専決事務報告

報告第 3 号 専決処分の報告について

(令和 7 年度大河原町一般会計補正予算 (第 9 号))

(令和 8 年度大河原町一般会計予算)

教育総務課長、生涯学習課長より説明。

丹羽委員	来年度の各小中学校の新しい電話機設置については良かった。いつ頃取り付ける予定なのか教えていただきたい。
櫻田教育総務課長	新年度予算で認められましたので、早期の設置に向けて進めていく予定でございます。
丹羽委員	それは良かった。また、バス賃借料の予算額が増えているが、これは子供たちが活躍している証拠であり、喜ばしいことで大いに結構だと思う。スポー

ツが伸びると、勉強もできるようになる。大変良いことだと思う。

**報告第2号 県費負担教職員の異動状況について（非公開）**

鈴木教育長より説明。

**(2) 専決事務報告**

**報告第3号 専決処分の報告について**

（令和7年度大河原町一般会計補正予算（第9号））

（令和8年度大河原町一般会計予算）

教育総務課長、生涯学習課長より説明。

**9 議 事**

**議案第6号 学力向上指導のための任期付教職員の任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第7号 在学青少年教育相談員の任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第8号 おおがわら子どもの心のケアハウス職員の任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第9号 特別支援教育支援員の任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第10号 学校図書司書補助員の任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第11号 スクールサポートスタッフの任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第12号 部活動指導員の任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第13号 社会教育指導員の任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第14号 部活動地域移行コーディネーターの任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第15号 学校開放事務補助員の任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第16号 生涯学習課事務補助会計年度職員の任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第17号 大河原町駅前図書館司書の任命について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

**議案第18号 令和8年度学校給食実施計画について**

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

丹羽委員	給食費は世界情勢、社会情勢等もあり、今後相当値上がりするのではないのか。その都度補正予算を組んで対応するのか教えていただきたい。
櫻田教育総務課長	学校給食費については、国の方でまず小学校の方が令和8年度から無償化となっており、約7千万円が国から入る予定となっております。 それが決定しましたら、補正予算を組み、町の歳入に入れることとなります。令和8年度についてはそれもあるため多少値上げしても対応できると考えております。
一盃森委員	2月12日付けで、学校給食運営審議会に諮問をして、第1号から第3号までについて原案というふうな形で諮問をし、諮問の通り答申があったという理解でよろしいのか。今までと作りが変わっていると思う。学校給食運営協議会というのが1枚あり、協議の結果、答申するというのがあり、その内容がわかるようになっていたと思うが、今年の作りが違うので確認したいもの。
櫻田教育総務課長	協議については、各学校の給食主任が集まって主任会を開き、ここで原案を作成し各学校が納得した上で学校給食運営審議会に上げるかたちとなっております。
鈴木教育長	形としては、諮問をしたら、答申という形にあるべきではないかということであり、昨年度の答申という形をとった方がいいのではないかということ。
一盃森委員	審議会の中で色々と意見が出ると思うので、やはり体裁としては、諮問があって答申というかたちをとったほうが良いと思い確認をしたもの。

## 10 その他

### (1) 教育長報告

#### 1 大河原町教育振興へのご尽力に感謝します

大きな1点目は、教育振興へのご尽力に感謝ということで、異動される金ヶ瀬中学校の山田賢一校長先生と、そして本教育委員会の小野寺淳一先生に対する感謝の言葉を書いたもの。他の校長先生方は留任となるため、引き続き本町の子供たちのためにご尽力をお願いしたいという話をしたもの。

#### 2 生徒の「求めているもの」を想像する（須江 航<sup>わたる</sup>）

大きな2点目は、仙台育英学園高校の硬式野球部監督である須江 航先生の記事で、やはり想像力というものが大事であり、生徒の考えていることを想像する、そういう力が大事であり、それは思いやる心に繋がっていくのだというような話をしている。

また、若い先生方が多いということで、彼らを支える組織が必要ではないのかというような話も須江先生はされているもの。大河原町においては、指導力向上研修という、大学教員を招聘しての研修を行って若い先生方を支えているもの。

#### 3 不思議な糸に導かれ（藤原正彦）

次に大きな3点目は、藤原正彦氏の著書で、藤原氏は非常に優秀な数学者であり、また、歴史、文化、教育等豊富な知識に長けている先生で、本当に読むと面白く私自身も勉強させられる内容である。

この「不思議な糸に導かれ」では、小学4年生のときの新しい図画工作の先生がなんと、安野光雅先生だったということを紹介している。後に、国際的賞を受賞する絵本作家の安野氏である。こういう出会いがあり、そこで数学の虫ともなったし、それから図画工作にも目覚めたというような話がしているもの。

#### **4 【学びのたより】学校の働き方改革とは？（石井順治）**

それから大きな4点目は、石井順治先生の「学びの便り」から、学校の働き方改革ということを書かれている。現在、全国で色々な学校行事等をスリム化することがされている。ただ石井先生は、働き方改革はいいけれども、学校の「教育の質」を落とさないようにするということの議論をされているかということも提言されているもの。

確かにその通りであり、教員が楽をして、仕事が楽になるというようなことだけではなく、子供もその教育の質が本当に保たれているのか、そういうことをやはり第一に考えるべきだと話されている。石井先生はそのためにはやはり「教員の増員」だと述べている。先生方が増えなければ、今の膨大な仕事を分担してこなさなければ、そのような解消にはならないと石井先生は書いておられるもの。

全く私も同感であり、やはり教育長会議においても、ずっと国には提言をしてるものの、なかなか実現には至らない。教員の増員については義務標準法の係数を改善し、各学校にゆとりのある配置にする。そうすると先生方もお子さんが熱を出したとか、病院に通いたいというときに気兼ねなく行けるといような、学校体制をとっていく必要があるのではないかと感じたもの。

#### **5 学び手を育てる対話力（石井順治）**

大きな5点目は、別冊でお付けしているもので、石井順治先生が「ぎょうせい」の『学校教育・実践ライブラリ』に1年間で連載された論説をまとめた内容で、若い先生方にぜひ読んでいただきたいということで紹介をしたもの。

#### **6 肥満・虫歯・視力**

大きな6点目は、肥満・虫歯・視力とあって、これは18ページにあるが、河北新報の2月14日の記事で、宮城の子要注意という見出しで載っていたもの。やはり肥満児傾向の子の割合が宮城県は高い。大河原町もそうであり、やはり沢山美味しいものを食べてると思う。ただ運動能力が高いので、肥満傾向はあるが一生懸命運動も頑張ってるのだと思う。虫歯については、DMFT指数の数値を見ると、大河原町は仙南9市町平均を下回り、市町別では4番目となっている。やはり歯科医院のある自治体、歯科医院の多いところは、そこに通うようになるということも考えられるほか、養護教諭が1回だけではなく、

何回も通院を促す通知を出している、そういう学校がやはり治療率も高くなっている。

それから視力については、全国の数値はないが、小学生が1.0未満が27%、中学生が46%で多いと感じる。やはりスマホとかゲームとかの時間が影響しているのではないかと思う。

## **7 「中学校の不登校8%」**

大きな7点目、中学生の不登校8%と新聞記事に載ったもの。大河原町でも令和7年度、6年度分であるが、小学校が全国値よりも高く、中学校はやや全国値よりも低くなっている。抑えられている状態ということが言えるのではないかと思う。ただ今年度は少し増えそうであり、なるべく低く抑えることができたらと思っている。小学校低学年からの不登校が増えており、学校に行かなくてもいいというような意識が保護者の中でも広がってきてるのだと感じる。それでもなるべく学校に復帰して、勉強や運動をみんなと一緒にしてほしいという願いを持っているもの。

## **8 モンスターペアレント論を超えて（小野田正利）**

**(1) 捨てぜりふを拾うんじゃない！**

**(2) 自分にも理由があり、相手にも理由がある（友人関係と成長）**

**(3) どこまでも「厳罰」を求める「被害者の保護者」に困り果てる**

大きな8点目は、小野田正利先生の「モンスターペアレント論を超えて」で、そこでも保護者との対応トラブルで、保護者からの問い合わせにすぐに答えるべき性質のものかを検討して返事をするべきかの判断が必要だということを述べている。また、保護者トラブルに完全収束は無く、やはり人間の感情であるから、すっかり忘れるとか許すとかはできないところが多く、徐々に小さくなっていくとか、そういうようなことがあればよしと考えるべきだと述べている。

また、仲間外れについては、対応が多様であり、友達関係というのも成長とともに流動化して移り変わっていくものである。そのため自然の流れに任せるべきだということで、そこに保護者や大人が強制的に介入してはいけないというようなことをおっしゃっているもの。

## **9 小学5年国語「新聞記事を読み比べよう」におけるゲストティーチャーの取組**

大きな9点目は、小学校5年生の国語の教科書に、「新聞記事を読み比べよう」という単元があり、その中でNIE教育ということで新聞を活用した国語力をアップさせる目的の単元であるが、河北新報の高橋唯之記者が大河原出身でいらっしゃるため、高橋記者にぜひ単元で1時間授業していただきたいという依頼をして了解をいただいたもの。

## **10 令和8年度事業について**

令和8年度事業については各課長からも説明があったが、ALTの増員について、中学

校では週4コマの英語の授業があるが、そのうちの一コマしかALTが入ってなかった。4時間のうち一つですから1人増員することで、4分の2になり、50%になるということで、ネイティブのとの接する機会も増えてくるため、子供たちの英語力アップが期待できると感じている。

それから、LITALICO 教育アプリ事業については、小野寺淳一先生に中心になっている。いろいろ試していただき、これは良いということで導入するもの。不登校の子、あるいは特別支援学級のそれぞれの子供に合った対応策や教材について、このソフトによって提示することができ、それを参考にして教員が指導に当たることができる。そういう個別最適化された環境を作ることができるほか、教員の負担軽減や指導の質向上も図ることができるもの。

自動通話録音機能については、カスタマーハラスメントの問題も時々あるため、録音機能によって抑止力になると考えている。そういう意味で今回設置できることは大変よいことだと感じているもの。

### **1 1 『ふるさと探求 おおがわら学』編集委員会の構成とスケジュール**

ふるさと探求おおがわら学については、先ほど令和8年度事業の中でも紹介したが、編集委員会を設置し、編集委員の人選と執筆を希望するテーマについて、各学校から委員を推薦していただくほか、スケジュールについて挙げさせていただいたもの。

### **1 2 校長会に依頼し検討してきたこと**

給食着の白衣の洗濯物の香害、つまり臭いの問題について。今、非常にいい匂いの洗剤、あるいは柔軟剤があり、良い匂いだと思う人はいいが、その匂いを嗅ぐことで、アレルギー的な反応を起こす子供も出てきている。新聞やネットでは、福井市において、そのような子がいたため、個人のエプロンにしようとして各自持ってくる取り組みを行っているという記事が載っていたもの。

大河原町の現状について、各校長に依頼し調査をしてもらったところ、匂いに関する香害というかクレームは全くなかったということ。ただ、金ヶ瀬小学校では、三角巾とエプロンを持参している児童が一人いるということであった。これについては、香害ではなく、順番に使うエプロンのボタンが外れてたり、そのままになっていたりしたほか、持ち帰るのを忘れて汚れたままのエプロンを使うことになったりという状況が続いたため、自分のエプロンと三角巾を使っているというような話であった。給食着の取り扱いについては、今は注視し、現状を維持していこうと考えている。

### **1 3 その他**

(1) OH!かわら楽校⑨「みんなで遊ぼう」

(2) 金ヶ瀬中学校卒業式（東北放送ニュース）

(3) 大河原町マンホールデザインコンテスト最優秀賞

各種事業の様子等について資料により説明。

丹羽委員	先ほど「ふるさと探求おおがわら学」の話が出たが、小山田やすとこの活動終了について非常に残念。何とかならないのか。せっかく素晴らしい伝統芸能であり、文化的なものがあつたと思う。金ヶ瀬小学校の堤神楽の学習のような形で何とか生かさないものか。
鈴木教育長	数年前から大河原小学校の3年生の音楽の授業で取り入れている。小山田やすとこ保存会のメンバーに来ていただき、踊りなどを3年生の子供に教えていただいている。何とか残したいという思いもあつたが、保存会が解散してしまい、継承者もなかなかいないということもあり今後も継続してやれるのか今後確認していきたい。
丹羽委員	継承する人がいなくなるということで、やはり伝承できなくなる。町として、とくに生涯学習課を中心として、せっかくの町の宝物を何とか継承していくために、今後について工夫をして考えていかなければならないのではないか。
鈴木教育長	公募もしたが、なかなか集まらない。保存会でも努力をし、生涯学習課でも呼びかけをしたが難しい。保存会のメンバーも高齢化しており続けることが難しくなったもの。
一盃森委員	後継者問題はどこにでもあるが、やはり大河原町の重要無形文化財であるため、例えば、今のうちにライブラリーで保存をしておく等の取り組みもこれから必要になってくるのではないか。そのような考えはないのか。
齋生涯学習課長	DVD化はしております。令和5年度事業で、映像を撮影させていただいてPR動画とチラシを作成したものです。撮影した映像をホームページに載せているほか、YouTubeで見れるような取り組みを行っております。
一盃森委員	先ほどの令和8年度事業についてでも取り上げた、ALTの増員については非常に期待するところが強い。以前の定例教育委員会において大河原中学校に行き、先生方の話を伺ったときに、指導の体制がなかなかうまくいっていないところがあり、背景にはやはり教員の不足の問題があると感じた。現実的に先生がいない。加配としてあてがわれていたはずの教員がそもそもいない。産休病休に入る教員がいると当然入ってこないというような中で、英語科としたは、英語の先生も実際はALTとTTを組んで授業を進めていきたいとしても、実際は授業のための打ち合わせをする時間が取れない。自分が補欠に入らなければいけないため、打合せ時間も取れない。そのような中で増員された効果について検討していかなければならないと思う。何のために増員するのかといことと、やはり増員したことで、こういう効果を期待しているというのが当然あるわけで、その効果を形として残すことができるかどうかではないか。
丹羽委員	仙台育英学園高校の硬式野球部の須江監督について、こんな監督がいらっしゃるのは大変ありがたい。須江監督の資料を読ませていただいたが、高校時

代にだいぶ苦しんだようだ。これが自身にとっての学びだったのだと思う。だから教員になったご縁で、それがプラスに働き、今のような人生は敗者復活戦だと素晴らしい言葉を残されている。自らの経験が優しいという慈愛に繋がった、そういう教育方針が素晴らしい。また、素晴らしいところだけを見るだけでなく、マイナスがプラスになったってところが素晴らしいと感じたもの。

林 委 員

不登校に絡んで、苦しい思いがなかなか乗り越えられない子供たちが増えていて、本当は人生の中で苦しい思いをしながら社会性も出てくるし、自分を高めていく。苦しいこと、小さいことから徐々に乗り越えていってこそ人は成長するのだ、ということが学校生活においても大事なことであるが、どうしてもそこが乗り越えられない子供たちが増えているのかなと思う。その不登校を乗り越えるときに、一緒に寄り添い、親身になっていくのが親であり先生であり、一番身近にいる大人が誘ってあげて、乗り越えさせるということが非常に重要だと思う。一番根本的なところが、今回出された教育長先生の資料の中にあり、町内の小学校においても、ここ数年低学年の不登校増加があり、私自身も驚いている。そして理由が学業不振となっており、ちょっと勉強がわからなくなって駄目になってしまう。でもそこを乗り越えたときに、面白いと思うことが大事で、そのところをうまく乗り越えさせられるように、私どももお助けできればいいと思っている。本当は小学校低学年1、2年生というのは、勉強は楽しいものだと思う。友達との遊びがもちろん楽しいのだが、友達と一緒に新しいことを知る、あいうえおがわかったり、足し算がわかったりと新しいことを知っていくことが楽しみなはずであるのに、そこを学業不振とまとめてしまうのは、何とかならないものなのか。小さい子供の学業不振は、ゲーム化したりパズルにするとか、少しの工夫で乗り越えられるのではないかと思う。

片 倉 委 員

モンスターペアレントの仲間外れの回について。この中で、下校するのにそれぞれ子供たちが帰りたいように帰る。1人で帰ったとしても、母親に1人で帰って寂しかった気持ちを伝えただけなのに、学校にいじめではないかと連絡をしてしまうという感覚が驚いてしまった。この場合、自分から声をかけるのが苦手というのはわかるが、周りの子供たちから先生に言われて一緒に下校してあげるといふ気遣いもいいと思うが、親が学校に対して、そこをいじめではと考えてしまうところや、この10年間で友達や仲間の離散集合がいじめだと訴えられることが多くなってるというのは、やはり時代なのかなというふうに感じた。

それと須江航先生の想像力について、自身も子供たちに対して、自分が言葉を発して、相手がどう思うかを小さい頃に言っていたなというのを思い出した。言われて嫌なことは言わないようにしようというのを、よく子供に

言っていた。

あと、先ほど小山田やすとこの話が出たが、DVD化されているのであれば、授業の一環で少しだけでも、1 時間でも 2 時間でも良いので枠を取ってもらって見る機会というか知る機会があると大河原にもこういうのがあるのだと知ってもらえて良いのではないかと感じた。

## **(2) 各課長報告**

### **教育総務課長、生涯学習課長**

令和 8 年度行事予定について説明。

#### **1 1 次回教育委員会の開催日程について**

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和 8 年 4 月 24 日 (金) 午後 2 時から開催する。

#### **1 2 閉会宣言 午後 3 時 45 分**

令和 8 年 4 月 24 日

署名委員

署名委員